

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：つくし保育園センター南	種別：認可保育所
代表者氏名：橋本 尚子	定員（利用人数）：70(78) 名
所在地：〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央49-10	
TEL：045-482-6011	ホームページ： https://shuhokai.or.jp/tsukushi/center-minami/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2013年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 秀峰会	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員： 5名
専門職員	（専門職の名称）： 名
	保育士：21名 看護師：1名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	居室：0歳児室 設備：給食室
	居室：1歳児室 設備：調乳室
	居室：2～5歳児室 設備：沐浴室
	設備：事務室
	設備：スタッフルーム
	設備：幼児用トイレ
	設備：園庭
	設備：第2園庭

③理念・基本方針

<理念>

【社会福祉法人秀峰会 理念】

- 1 人間が主体である
- 2 連帯の輪を無限に広げていく
- 3 日に日に新たな今日を創造していく

【つくし保育園 理念】

1. 自分で生きてゆく力を養う(自律)
2. 人と協調して生きる力を養う(社会性)
3. 美しさを感じる感性を育む(センスオブワンダー)

<基本方針>

- 受容された安全な環境の中で、主体的な活動を楽しみます。
- 人に対する愛情や信頼感をもとに思いやりの心を育みます。

- 子ども同士の遊びを通して生きる力を育みます。
- 自然や文化に触れながら、豊かな感性を養い子どもの夢を育てます。
- 保護者の方と話し合いながら共に考え、共に成長を見つめていきます。

<保育目標>

1. 心も体も元気な子
2. よく食べよく遊ぶ子
3. 人との関わりを楽しむ子
4. 考えて行動する子

④施設・事業所の特徴的な取組

<つくし保育園センター南の特徴的な取組>

1. 不適切保育の撲滅

つくし保育園では虐待とまでは言えないが子どもたちに対して適切ではない保育を行うことを「不適切保育」と定義し、リーダー委員会が中心となり「不適切保育防止ハンドブック」を独自に作成している。虐待はいきなり起こるものではなく必ず前触れがあると考えており、これを見逃さず虐待につながりかねない。その適切ではない保育を撲滅するため、園では日々の保育を振り返り、毎月話し合いの時間を設けている。これまで以上に子どもの最善の利益や、子どもの人権・人格について一人一人が意識を高められるようにする

2. リトミック

音楽に触れながら、音感やリズム感だけでなくコミュニケーション能力や協調性、集中力を養い、子どもの成長を促して全身をバランスよく発達させていく

3. 運動あそび

楽しみながら運動遊びを行う中で「やれば出来る」という気持ちを育てることを目的としている。子どもたちの考える力や意欲を自然と引き出し、自発的な行動、やる気、興味、体の使い方、危険を回避する安全能力を身に付け、やれば出来るという自己肯定感を高められるようにする

4. 環境の活用

立地環境を活かし、自然や文化に触れながら豊かな感性を養う

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年06月24日（契約日） ～ 2024年12月23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

⑥総評

【つくし保育園センター南の概要】

●つくし保育園センター南（以下、当園という。）は、社会福祉法人秀峰会（以下、法人という。）の運営です。法人は、社会的要請への適合をスローガンとして介護、看護、医療、保育の変容するニーズに応えるためにグループ全体が連携することで、地域社会を包括的に支えていくことを経営の方針としています。「つくし保育園」の「つくし」の命名は、「つくしのような強い生命力のある子どもの育成」をねらいとして銘うち、

子どもの姿を、真っすぐ空に伸びる強い生命力を持ち、様々な環境の中で逞しく成長する姿と重ね合わせられています。当園では、園長の保育観と雰囲気により職員は高い結束力、柔軟性により「やってみよう」の精神で「やりながら」修正調整を図り、目的・目標に向かう姿勢を大切に保育に当たっています。

●園舎は市営地下鉄「センター南駅」より徒歩1分の場所に位置し、利便性の高さとも濡れない程のアクセス環境の良さは当園のメリットの1つです。都筑区は横浜市が計画的に開発した地域で、子育て環境として非常に人気が高く、子育てリテラシーも高い新興住宅街地域です。また、中核駅としての機能として区役所、警察、消防、パスポートセンター、区民ホール等の社会的資源施設も隣接している等、利便性と立地環境においても選ばれる園となっています。園舎は、高架下1階にあり、園内は0歳、1歳児は個室とし、1フロアにて全てのクラスが見渡せ、各クラスの横断ができることにより異年齢の意識付けが可能な環境作りがされています。

●当園は、平成25年4月1日に法人系列園で2園目に開設され、12年目を迎えています。現園長は、園開設時にパート職員として入職し、その後正規職員となり現場で十分な経験を有し、主任保育士を経て園長に就任して3年目を迎えます。現場経験とスキルを遺憾なく発揮され、隅々までの配慮と共に職員の立場に立って共に考え、より良い園作りに尽力し、保育活動を精力的に活性化させています。

◇特長や今後期待される点

1. 【不適切保育の撲滅について】

虐待が疑われるだけでなく関わりが適切でない保育を不適切保育と位置付け、独自のハンドブックを作成し、法人系列園で統一した認識としています。当園では、月1回のリーダー委員会で虐待防止について事例を基にケーススタディを図る等、認識の統一化に取り組んでいます。また、虐待等権利侵害等の前兆を看過しないために日々の保育を振り返り、忌憚ない意見交換により職員の意識是正に努めています。特に、差別的な関わり、個々の育ちや家庭環境への配慮欠如、乱暴或いは強要するような関わり、人格を尊重しない関わり等、多岐多面にわたって意識しています。この実現により安心・安全な保育が基盤となり、楽しい保育へつながっています。

2. 【食育について】

保育理念である「センスオブワンダー」（「自然に触れて深く感動する力」という意味を持つ言葉）の感性から生命の大切さを伝え、食材に対しては「命をいただき、元気に成長させてもらう」ことを体現して理解していく等、豊かな感性を育む取組を実践しています。

3. 【リズム感の習得について】

開設当初よりリトミックを保育に取り入れています。週1回、リトミック指導の資格を持つ園長が主導して、子どもたちにリトミックの特性を生かした協調性、集中力を養い、リズム感の習得をしています。また、運動遊びの中で体操を取り入れ、リズム感の相乗をねらい、さらに、運動を通して達成感を体感し、子どもたちは「やればできる」の意欲を培っています。

4. 【ICT導入について】

国及び県をはじめ、保育の質の向上に向けた取組として、保育者の業務環境の改善の必要性からICTの活用を推進しています。現世代の保護者のITリテラシーも高いことから導

入の検討は必要かと感じています。まずは現業務の補完、置き換えることで業務が軽減できる機能からの導入を段階的・計画的に進めることが望ましいと思われます。また、保護者連絡にメールを活用されているので、配信業務の軽減にもつながることも想定できますので、一考を期待しております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 つくし保育園センター南

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

今回の第三者評価受審にあたり、職員全員で自己評価に取組み、一人ひとりが日頃の保育の見直しや確認を丁寧に行うことができました。

この貴重な機会に沢山のアドバイスをいただくことができ、とても学びと気付きの多い第三者評価受審となりました。

保護者の方々にもご協力をいただき、頂いたアンケートからも課題を確認することができました。

保護者と子どもたちに寄り添っていきたいという職員共通の思いを大切にしながら、今後の園運営に生かしていけるよう、また、学びを深め更なる保育の質の向上へ向けて努めて参ります。

《評価後取組んだこととして》

1. 保護者、保育士の負担を軽減し、よりコミュニケーションを円滑にするためにICTを導入。

2. 子どもたちが心身共に満たされ豊かに過ごせるために、職員一人ひとりが保育力を高められるよう研修を通して研鑽を重ねた。

3. 余裕の職員体制が引き続き組めるよう、採用方法の工夫を行った。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり